CAGLIERO 11

カリエロ11 サレジオ会宣教ニュース

N.115 – 2018年7月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

教皇の書簡、Maximum Ilud マクシムム・イルドは、2019年10月の特別宣教月間に向けて歩む私たちの同伴者となってくれています。その中の最も独自の鋭いテーマの一つは、間違いなく「その土地出身の聖職者」を預言的に、聖霊に照らされて強調していることです。私たちは今日、置かれた状況で、また共有するビジョンにおいて、「宣教の活性化、召命の活性化」として、このテーマを表現しています。今日、会の中でも比較的若い地域や管区の中に海外宣教の召命の源泉になっているところが少なくないことは、大変意義深いことです：例えば、インド、アフリカ、ベトナムなどです。このことは、宣教師のサレジオ的な在り方に深く根づいています。その在り方において、「[宣教活動は] 本会の霊能（カリスマ）に固有な教育・司牧上の活動で、総力をあげて取り組むべきものである」（会憲第30条）。その中で召命の活性化は「わたしたちの教育・司牧活動全体を仕上げる」（会憲第37条）ものです。福者セフェリーノ・ナムンクラは、サレジオの宣教の実践全体に行き渡る召命の色合いを雄弁に語るイコンと言えるでしょう。福者セフェリーノは、聖フランシスコ・サレジオ修道会が初めて取り組んだ大いなる宣教プロジェクトの熟した実りです。セフェリーノは、全くマプーチェの人間でありながら、サレジオ会員となることを願い、そうして「自分の同胞の役に立つ」ことを望んだのです。

宣教顧問
ギジェルモ・バサニェス神父

宣教する若者

今回は、教皇庁立の諸宣教会によって提案された「**宣教する若者の会**」に向けての興味深い取り組みを紹介します。このような良い実践例は、サレジオ青少年司牧における私たち自身の宣教促進においても、導きとなりうるでしょう。「宣教する若者」の提案をここに紹介します。

これは、信仰普及のための教皇庁立宣教事業によって提供される宣教活性化の奉仕です。すべての若者の普遍的宣教精神を目覚めさせ、活気づけ、教育し、保たせようとするもので、地域的な、また普遍的な使命を実現できるよう、若者を助けるものです。

「**宣教する若者**」はもう一つの青少年運動となる、あるいはそのような運動を組織するものではありません。そうではなく、「パン種のグループ」になり、ほかの若者たちの宣教促進に取り組みます。「宣教する若者」は、「カトリックの人々の間に、子どものときから始めて、真に普遍的な宣教の感性を広めることを提案します。宣教地のために効果的に支援を集める活動を促進します。すべての人へad gentes生涯をかけて赴く宣教師の召命を目覚めさせたいと願います」（「救い主の使命」84、一般規則 参照）。「若者の宣教に向けての教育にふさわしい特質を考慮し、この事業は若者に宣教奉仕の機会を提供します」：

- すべての若者のために。その中で「**パン種**」グループとして集められた若者は、若者の宣教に向けての活性化を助けます。
- **アニメーター**（司祭、修道者、信徒）。アニメーターは自らの経験を活かして奉仕を提供し、「宣教する若者」の一員となります。
- 「聖なる幼な子」にすでに参加している子どもたちは特別に「宣教する若者」に招かれます。この子どもたちは「**子ども宣教グループ**」（「宣教する若者」の第一段階）に歓迎されます。
- それぞれのグループのアイデンティティーを失うことなく、自分たちの使徒的グループを、「宣教する若者」と連携させる若者たちもいます；（所属するグループにとどまりながら）「パン種」グループのメンバーとして関わる若者もいます：別の若者たちは、メンバーにはなりませんが、「宣教する若者」の奉仕に参加し、協力します。

「宣教する若者」は次のことを提案します：

- 新しい教会の必要に応えるため、**キリスト者の生き方と宣教のための養成を強化する。**
- 普遍的な**宣教の精神**を促進し、生きること。グループ、家庭で、ほかの若者たちと共に。
- 若者たちの中で、宣教召命の**識別**とその成長のために互いに支え合うこと。
- キリスト者でない人々への世界的な福音宣教のため、**霊的・物的協力を促進する。**
- 「あらゆる境界を越えて」福音を宣べ伝えるために出かけて行く準備ができていること。普遍教会の必要に応じ、一人ひとりの若者の可能性を考慮しながら。

「私と暮らすことは、周りの人にとってはチャレンジだったでしょう!」

司祭になることは、私の子どものころからの夢でした。互いに出会えたのはサレジオ会にとってラッキーでした（あるいは私にとって）。私はたった11歳で志願院に入りました。カステッリ神父やエジディオ・ソラ神父といったマドラス管区のサレジオ会宣教師たちの模範は私の心をとらえました。私は彼らのようになりたいと思いました。修練期のとき、そしてポスト・ノビスのとき、私は宣教グループの活動的なメンバーでした。哲学生の間も、宣教への関心を探求しつづけました。とうとう、実地課程のためにタンザニアへ行く機会を与えられました。まだ21歳でした。

宣教師として困難を経験したと言うなら、私は不平不満を言っているように聞こえるでしょう。宣教師としての召し出しに、私は全く不平不満などありません。しかし、挑戦を前にすることはありました。すなわち、難しい出会いや体験です。それは学ぶため、宣教師としての召命を深めるための機会にもなりました。そのような挑戦の一つは、さまざまな国出身の文化や言語の異なるほかの宣教師たちと暮らさなければならないことでした。きっと彼らにとっても、私と暮らすことは同じように“挑戦”だったでしょう!　私たちにとって、祈り、共同体生活、自分たちの召命への熱意が、それらのハードルを乗り越える助けになったのだと思います。

私の最高の喜びは自分の労働 - ささやかな宣教の取り組み - の実りを目にすることです。私は20年にわたり学校で教師として教え、運営にたずさわってきました。私の生徒たちが良い人生を送っているのを目にしてきました。彼らは司祭、修道者、医師、職人、行政官などになりました。始まったばかりの段階で自分が後にした宣教拠点が大きなキリスト者共同体に成長していることにも、私は大きな喜びを覚えます。人々が仲間の一員として私を受け入れてくれるとき、とてもうれしくなります。ウガンダ北部の難民の中で働く今の仕事は、私の召命に新たな力を与えてくれました。

サレジオ会宣教師であることは、召し出しの中のさらなる召し出しです。サレジオ会宣教師は、若者に福音を宣べ伝える宣教師の大群の一人です。ドン・ボスコのスタイルで多くの人にイエスを告げ知らせるのです。サレジオ会宣教師であることの最も大切な要件は「サレジオ会員であることを誇りに思い、とても幸せで熱意に満ちている」ことです。勇気を持つこと、恐れや疑いに陥ることなく、新しい体験に開かれていることが必要です。

インド、マドラス-チェンナイ管区出身、
1990年よりウガンダの宣教師　**ラザール・アラス神父, SDB**

サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人　ピエルルイジ・カメローニ神父

福者マリア・トロンカッティ（1883 - 1969）エクアドルのシュアールの人々の中で働いた、扶助者聖マリア修道女会（サレジアン・シスターズ）会員。次の証言があります：「シスター・マリアを、私たちの共同体から、司祭、そのほかのサレジオ会員が訪ねました。サレジアン・シスターズの会員も相談するために訪れました。皆、心にかかっていることや計画などをシスター・マリアに話しました。シスターは一人ひとりに励ましや理解の言葉を語り、助けようとしていました。スクアの人々、マカスやそのほかの地域からも人々が会いに来ました。シスター・マリアは皆に忍耐強く耳を傾け、人々が必要とするだけ時間を取りました。常に励まし、助言し、助けました。シュアールの家族たちもシスターを訪れました。シスター・マリアは人々の心に至る秘密の道を知っていたのです。私たちは皆、シスターを賢明で心の広いカウンセラー、共感にあふれた母のように感じました。シスター・マリアは、ロザリオを手に、この魂の霊的指導を果たしていました。キリストの苦しみ、喜び、勝利の秘義を訪れる人々に差し出しながら。」

サレジオ会員の道への召命のために

サレジオ会の宣教の意向

収穫の主が、若者に仕える数多くのサレジオ会修道士、司祭の聖なる召命を送ってくださいますように。

若者は、24時間、心を尽くして仕える、友人、兄弟、父のような奉献されたサレジオ会員を必要としています。サレジオ会員と共同体のあかしが若者にとって意味深く、魅了するものでありますように、また管区における司牧の働きが、現代の若者に修道奉献の美しさを示すことができますように、祈ります。